

備中神楽 荒神神楽 とは

概要

備中神楽

備中神楽は、岡山県の備中地区の農村で演じられる神楽である。

備中神楽は原始的な信仰である。

嵐または病気などを引き起こす神(荒神)の心を鎮める為の行事として荒神祭りがある。備中神楽は、鎮魂行事として、そこで演じられます。

「備中神楽」は、民俗芸能として伝承されています。長い年月の間に、「神の信仰心」が「芸能」と融合したのです。現在、「備中神楽」は、秋祭りなどに欠かせない郷土芸能となっています。

備中神楽には、神代神楽三曲がある。

今から 200 年前ごろ。西林国橋が、日本誕生に関する神話の歴史書(古事記と日本書紀)から三話を選び、そして、劇化した。「天の岩戸開き」「国ゆずり」「大蛇退治」の三話である。それは、バラエティーに富んだ芸能性の高い神楽になりました。それが、「神代神楽」です。彼は、岡山県成羽の出身で国学者であり、神官であった。

備中神楽は、岡山県重要無形民俗文化財の第2号に指定される。(1956 年)

そして、備中神楽は、「国の重要無形民俗文化財」に指定される。(1979 年 2 月)



2. 導き舞い

導き舞は「猿田彦の命」の由来を説明する舞である。その舞は、「備中神楽」の基本となる舞い方が披露されています。

この神は、天孫瓊瓊杵尊が芦原中津國に天下る途中、天の分岐点で出迎え、神々を先導した神で、日本書紀によると、鼻が長く、目が赤くホオズキのように輝いているという。

3. 猿田彦の命の舞

この舞は、神楽の始めにおこなわれる。この神は、「先祓い」の神と呼ばれている。

その舞には、日本刀や槍を東北南北に向けて切り裂くような動作を観ることができる。

切り裂くことによって、不幸や災害を除くなどの意味を持っている。

これから始まる神楽の先陣として、世話役、神楽師や舞台を清める。

更に、お客様も清める意味をもっている。

この神の容姿は、次の通りである。赤地に金銀を配した鎧を着けている。顔は、鼻の高い面をかぶっている。そして、白い頭髪をかぶっている。下半身には、袴を着けている。そして、腰に刀をさしている。両手に扇子をもっている。



4. 天の岩戸開き

天照大御神が弟神、素戔鳴の尊の悪行に怒り、天の岩戸に隠れ、天地が暗闇になってしまう。

彼女が岩戸に隠れてしまった為、あわてた諸神が「天の安河原」に集まり、一計を案じているところからこの物語ははじまる。

「天児屋根の命」と「天太玉の命」の両神と、この二柱に呼び寄せられて翁の面の「思兼の命」が現れる。この神は思慮深い知徳の神で天照大御神を岩戸から出す手段を思案する。

次は天鈿女の命。早い調子の太鼓に合わせて大きな動きで舞い踊る。手には扇子と鈴を持ち、サンヤー サンヤーの囃子で軽やかに舞う。



続いて剛力の神の手力男の命が登場、岩戸に見立てた大幕を引き開けると、天照大御神が鏡を持ち鎮座している。天鈿女の命が大御神の鏡をとり、幕を閉じる。

最後にうれしき舞を舞い幕となる。



5. 国譲り



高天原より経津主の命・武甕槌の命の両神が、出雲国を治める大國主の命のもとに現れる。

両神は天照大神の勅使として、國を譲るよう勧告にやってきたのだ。大國主と両神の交渉は決裂するが、稻脊脛の命が現れこれを仲裁する。



談判の結果、國を譲るか否かの判断は、大國主息子の事代主の命に委ねられることに。事代主の命は「皇

孫に國を献上すべし」と進言するが、もう一人の息子の建御名方の命は憤慨。単身、両神へ闘いを挑む。



乱戦の末、二対一の負い目もあり建御名方の命もついに力つきて降参する。そして、両神がうれしき舞をおさめ幕となる。

6. 大蛇退治

悪行をはたらいたいため高天原を追いやられた素戔鳴の尊が、櫛稲田姫を救うため、八俣の大蛇を退治するという物語。素戔鳴の尊は、櫛稲田姫を私にしてくれるなら大蛇は義姉の仇となる。そのため謀をもって大蛇を退治すると約束する。その謀とは、毒酒を八千石造り大蛇に飲ませ、酔って眠ったところを切り倒すというものであった。



後半最初の演目は、酒作りの守護神、松尾明神の舞です。この神はおどけた道化面を着けています。そして、彼は、おどけた身振りで出てきます。彼は、太鼓演奏者と滑稽な対話をしながら演じます。

そしてクライマックスは、素戔鳴の尊と、神殿狭しと暴れる大蛇による決戦が始まる。

素戔鳴の尊が大蛇の首を切り落として、大蛇は、退治された。

更に、大蛇の体内から宝剣を見つけ、それを天照大神に献上することになる。そして、大蛇退治が幕となる。



7. 吉備津

それは、吉備津彦の命が温羅(吉備冠者)を退治する物語です。温羅(吉備冠者)は、備中国で暴れる鬼であった。最初に、彼は、備中国の主、岩山明神の姫から二本の矢を渡されます。

姫が矢を手渡した後に、吉備津彦の命は、戦いにそなえて力のこもった荒々しい舞を舞う。

突然、大幕が開き、鬼の面に黒の頭髪をかぶった温羅が出てくる。

この合戦は長時間続きます。二人は弓矢を持って戦います。川を間に、お互いを探す場面が見所です。木綿一反を対角に張り渡して川に見立てます。

ついに温羅は降参し命に吉備の国の系図をささげ、うれしき舞を舞う。



詳しくは、以下のサイトから

PC ホームページ「おく山のお便り」

PC <http://www.mk-s.net/~okuyama/>

smart phone <http://www.mk-s.net/sp-kagura/>



ケータイサイト「備中神楽」

au <http://www.mk-s.net/~k-kagura/au/>



docomo <http://www.mk-s.net/~k-kagura/docomo/>



Softbank <http://www.mk-s.net/~k-kagura/softbank/>

